
老若男女 魍魅魍魎にボインちゃん 秘境温泉極楽浄土への旅～ポロリあるよ～

木綿箸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

老若男女 魑魅魍魎にポインちゃん 秘境温泉極楽浄土への旅
ポロリあるよ

【Nコード】

N4288BA

【作者名】

木綿箸

【あらすじ】

イカス吸血鬼（男性無職）ポインちゃん（学生）による。

温泉宿サスペンス

ホラー

アドベンチャー

ラブ

ファンタジー。

いち

霧のかかった道路をつらなつてたつてる街灯をみてる。

田舎の山道。

消えかけた街灯。パチパチ世話もなく瞬きをして。

あかりひとつをとつても時代のうつろいを感じる。

蝋燭の灯、油のランプ、揺らぎのある触れれば焼けてしまう熱いあかり、いまは…この瞬きする街灯だって古い。

コートのポケットのなかからLEDのペンライトと、バスの時刻表を取り出して、バスの到着時刻を確認した。

いま、バスにのつてる。

自身、歳をとつた気はしないが、関節も視力も、成長の段階ではなくて使いふるしていくんだなとおもつ、時刻表の字が小さすぎてみえない。

バスの窓は結露してる。杉山の葉にもたくさんの夜露がしつとりおりてる。

葉に浮いた露のひとつひとつを見れたあの頃、際限のない食欲に性欲に、ただ生きた感覚をたのしんでた。

いまは

ただねむりたい。

バスが二三、身震いをし
停まった。

「…お尻ごわごわ」

バス停を降りると、

腰が半分に折れまがった老婆が蝙蝠傘を持ってまっていた。

足元はゴム長で、畑仕事してそのまま迎えにきたような格好だった。こちらを見て、目を離さない。バスを降りたのも、自分だけだし、きょうとまる旅館の使いで間違いない。

「若い殿方が珍しい、お一人で？」

「こちらの史料館に、調べものを」

「ああ、郷土史の先生さんね、なんぎやね、こんな気候の悪い日に老婆が歩きだしたので、うしろについて歩いた、旅館までは二百メートルくらい。」

霧はたちこめているが、雨はふっていない。使いの婆さんは傘をさしたままだ。

雨はふっていない。

傘を叩く水滴の音がたまにする。

コートが重い、たぶんいま鏡を見たら髪がもやもやになってる。

「外人さん？」

婆さんがしゃべった。

「ひいばあさんに、アジアンがひとりいたみたい」

「そうかねそうかね」

容姿はね、

おめめは、みどりで、

肌の色は白めで、

髪は肩くらいの黒、

脚はながくて、鼻もたかくて、若いイギリス紳士みたいなかんじ。

ただ、ローマが政治を始めたくらいから生きてる。

吸血鬼。

いち(後書き)

つじつます

に

畳みの和室にはいると、ぬれた山のおい、床のきしむおと、

すこしカビ臭い布団。

シーツだけ、あたらしく清潔で、ノリまでかけられていたから、それだけ目立った。

20時。

「ばんごはんほんとに、いらんかね？」

「いらんて、たべてきたんだって」

バス停から旅館への道すがら何度もきかれ、なんどもこたえてる

「そんなやから、縦にひよるながなって横にふとらんのよ」

婆さんに会って、30分たつてないのに、この人から産まれた気がしてきた。

「ここから温泉でるとこ近いんだっけ」

「川添の道くだったらすぐよ」

「荷物もおいたし、いってくるよ」

婆さんは、ばんごはんのことをいいながら無料貸出のお風呂セットがあるからと、部屋をでてった。

部屋におかれたちゃぶ台の上に、手書きでかかれた温泉までの地図がおいてあった。

さっき、いれてもらったお茶をすすりながら。

地図をもって、窓から外を。

旅館は溪谷の上にあつて、すぐそこに川の水流。旅行の下に、赤塗りの板でできた橋のような、遊歩道が作られていてそれを行くと着

くらしい。

朽ちかけた橋の足元にぼつぽつあかりがともっている。つづきが山林の中につながって消えた。その先も夜でも歩けないではないくらいにはしてあるのだろう。

赤い橋。

陰気に、木の枝がしだれかかって、川の方へ誘う瘦せた女の腕にみえた。

このあたりは、銅山と温泉宿で一時は流行ったところだった。でも、いまはもう疲れて、余計になったものを山に還していく、途中なんだろう。

浴衣に着替えてると、パンツと靴下なのに、婆さんはなんにもきかせず、ラップにつつんだおにぎりと、貸出お風呂セットをもって戻ってきた。

さん

橋の下は黒い流れしかみえない。二三日前には雨がふって水かさがありましたのだから、穏やかではない。

ラップのおにぎりをで、片手おてたまをしながら、かぞえうたを歌おうとして、やめた。

あたたかいおにぎりだが、すこし うとましい。

自分の頬や耳や胸。

冷たい。

体温はない。

たちこめた霧よりも、岩よりも。足を流れる黒い川と、おなしで、ただ、からだの真ん中にあるポンプが冷えた血をまわして朽ちていくのを待つ途中なのだ。

……。

携帯がなりだした。

「はい」

女の子からだった。

「どした」

「どしたじゃないです!! 今晚はレポートの発表があるから、研究課題がいなくなったら困るっていいましたよね!!」

たいへんに怒ってる。

電波の先にいるのは、

14歳の魔女っ子学校バンパイアハンター科に通う ボインちゃん
(巨乳) 本名がはなちゃん。

「約束しましたのに！」

「いっしょの棺桶で眠ってくれたら、レポートに協力するって約束でしょ。約束破ったのはボインちゃん」

「いまどこです！？20分なら遅れてもだいじょうぶなの！」

「いまね、極楽浄土温泉宿の旅」

彼女がたいへんに怒ってる。

し

「旅行なんてきいてません！勝手にどこまりいかれたら契約もあつたもんじゃないです！」
「穏やかではないかんじ。」

魔女はいくつにかなると、故郷から離れ、一人暮らしの修業する（ジブリ、キキしかり）。

使い魔を一匹はもつようになつてる。

黒猫や梟、蜘蛛、蝙蝠。魔力が未熟な内は、本人より下等なレベルの動物なんかと契約を結ぶ。ビスケットを三枚、毎日あげるから、命令を聞いて - 要領はこんなかんじ。

もちろん、魔女っ子学校のポインちゃんも、修業試験で、使い魔と契約を交わしてる。

「ポインちゃんの魔力がもう少し強くなきゃ契約の効力はでないんだよ」

イカス吸血鬼と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4288ba/>

老若男女 魑魅魍魎にボインちゃん 秘境温泉極楽浄土への旅～ポロリあるよ～

2012年1月11日19時47分発行